



博物館の窓

第107回

学芸員 持田 誠

新宿オカダヤは1927年(昭和2年)の創業。「手芸のデパート」として知られる、生地や洋品の老舗です。本店はいまも変わらずに営業を続けているとのことですよ。

オカダヤさんと取引のあった谷尾洋服店(浦幌町末広町・既に閉店)の経営者、谷尾百健氏の娘である典子さんから、そろばんを2挺(ちようご)寄贈いただきました。オカダヤさんの名が入った五珠そろばんのほか、大阪の平井米商店の名入りそろばんも寄贈されました。平井さんからのソロバンには「函刷子(函ブラシ)」「暖爐(だんろ)」「の文字が見え、米商店の取扱品として興味深いものがあります。

さらに、谷尾洋服店の写真と、店主であった谷尾百健氏(1909~1993年)の写真、それに谷尾氏が愛用されていた懐中時計も寄贈いただきました。谷尾百健氏は1909年(明治42年)に鳥取県で生まれました。6歳のときに家族と池田町へ入り、二十代の頃に浦幌へ来て「谷尾洋服店」を開業されたとのことですよ。

浦幌の商業史を記録する貴重な資料として、大切に収蔵・活用させていただきます。ありがとうございます。

谷尾洋服店のソロバンと谷尾百健氏の懐中時計



谷尾百健氏と谷尾洋服店。右は百健氏愛用の懐中時計 (写真提供: 谷尾典子氏)



谷尾洋服店で使われていたオカダヤの名が入った五珠そろばん